

門司港レトロ展望室

ガラス張りの広々とした門司港レトロ展望室は、31 階建ての高層ビル「門司港レトロハイマート」の最上階にある。眼下には関門海峡の海上交通や市街地が 270 度見渡せる。最大 100 倍の倍率を誇る高性能なデジタル双眼鏡を使えば、海峡の対岸にあるランドマークを見つけることもできる。晴れた日には、海峡を挟んで唐戸栈橋、カモンワーフ、赤間神宮を正面に見ることができる。西には下関港と、1612 年に著名な二人の剣士、宮本武蔵と佐々木小次郎の間で悪名高い決闘が行われた巖流島がある。北には壇の浦、火ノ山、関門橋がある。旧門司三井倶楽部、旧大阪商船ビル、門司港駅、旧大連航路上屋、旧九州鉄道本社ビルなど、門司の歴史的建造物も一望できる。

門司の夜景

日没直前には、展望室の照明が柔らかいオレンジ色に落とされる。その壮大で穏やかな夜景は、"日本夜景遺産"にも選定されている。この眺めのおかげもあって、最上階のカフェはロマンチックなデートに最適なスポットとして知られている。

黒川紀章 (1934–2007)

門司港に聳える高さ 103m の門司港レトロハイマートは 1999 年に竣工された。このガラス張りの摩天楼は、東京の中銀カプセルタワービル（1972 年竣工）で一躍有名になり、建築運動メタボリズムの創始者としても知られる建築界の第一人者、黒川紀章（1934-2007）によって設計された。黒川の名声はその後、ベルリン日独センター、メルボルン・セントラル、アムステルダム・ゴッホ美術館新館などといった表彰された建築作品によって、国際的にも広まった。